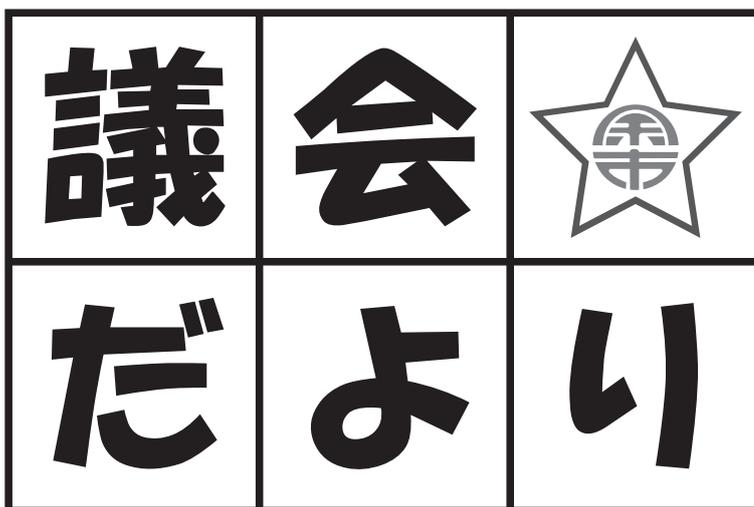


よいち町

2025. 3
No.214



1月13日、第42回余市町地域子どもかるた大会が余市町中央公民館で開催され、参加した子ども達は「百人一首下の句かるた」を通して文化を味わい、楽しみながら日頃の練習の成果を競い合いました。

第4回定例会・第1回臨時会・第2回臨時会の審議結果

○主な審議結果 P2～4

- ・令和5年度各会計の決算を認定
- ・余市町職員給与条例及び余市町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案など6件の条例案を可決

○常任委員会の動き P5～6

○一般質問 P7～11

- ・10議員が町政全般について18項目を質問

審 議 内 容

令和6年第4回定例会 令和7年第1・2回臨時会

令和6年12月10日～12日に開催の第4回定例会での審議結果、令和7年1月20日開催の第1回臨時会、令和7年2月5日開催の第2回臨時会の審議結果についてお知らせいたします。



各会計決算特別委員会

決 算 認 定

- 令和5年度一般会計決算認定について
 - 令和5年度介護保険特別会計決算認定について
 - 令和5年度国民健康保険特別会計決算認定について
 - 令和5年度後期高齢者医療特別会計決算認定について
 - 令和5年度公共下水道特別会計決算認定について
 - 令和6年第5回臨時会に提出された令和5年度の一般会計ほか4会計の決算は、令和5年度余市町各会計決算特別委員会（茅根英昭委員長・川内谷幸恵副委員長）を設置、付託し、審査していましたが、第4回定例会で委員長報告のとおり認定しました。
 - 令和5年度水道事業会計決算認定について
- 令和6年第3回定例会に提出された令和5年度水道事業会計の決算は、令和5年度余市町水道事業会計決算特別委員会（寺田進委員長・内海富美子副委員長）を設置、付託し、審査していましたが第4回定例会で委員長報告のとおり認定しました。

令和5年度各会計決算

会 計 別	歳入決算額	歳出決算額	差引残額
一 般 会 計	117億 391万円	113億 1,717万円	3億 8,674万円
介 護 保 険 特 別 会 計	25億 2,555万円	24億 995万円	1億 1,560万円
国 民 健 康 保 険 特 別 会 計	24億 1,311万円	23億 5,898万円	5,413万円
後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計	3億 4,826万円	3億 4,804万円	22万円
公 共 下 水 道 特 別 会 計	15億 3,957万円	9億 4,044万円	5億 9,913万円

※歳入歳出の差引額の差異は千円以下を四捨五入していることによるものです。

令和5年度水道事業会計決算

水 道 事 業 会 計		
収益的・資本的	収入決算額	支出決算額
収益的収入及び支出	7億 1,161万円	7億 1,796万円
資本的収入及び支出	7億 9,689万円	10億 9,076万円



水道事業会計決算特別委員会

審 議 内 容

人 事 案 件

□余市町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

余市町教育委員会委員の任期満了に伴い、渡辺尚子氏を再任することに同意しました。

○果樹加工施設整備事業補助金
1700万円

○中小企業振興事業補助金
629万円

○住宅取得等支援補助金
196万円

○ニッカウチスキー余市蒸溜所
保存活用事業補助金
736万円

□令和6年度一般会計補正予算
(第8号)
総額6270万円を追加

◆主な補正内容

○人事院勧告に伴う人件費の整理によるもの。
6270万円

□令和6年度一般会計補正予算
(第9号)
総額2億4341万円を追加

◆主な補正内容

○物価高騰対応重点支援地方創
生臨時交付金による物価高騰
対策事業
2億4296万円

特別会計

□令和6年度国民健康保険特別
会計補正予算(第1号)
総額356万円を追加

◆主な補正内容
・交付金の精算に伴う返還金に
よるもの。

□令和6年度水道事業会計補正
予算(第3号)
・収益的支出で418万円を減
額、資本的支出で6万円を追加

◆主な補正内容
・人事異動に伴う人件費の整理
によるもの。

□令和6年度水道事業会計補正
予算(第4号)
・収益的支出で589万円を追
加、資本的支出で23万円を追加

◆主な補正内容
・人事院勧告に伴う人件費の整
理によるもの。

□令和6年度下水道事業会計補
正予算(第2号)
・収益的支出で1110万円の
減額

◆主な補正内容
・人事異動に伴う人件費の整理

によるもの。

□令和6年度下水道事業会計補
正予算(第3号)
・収益的支出で140万円を追
加、資本的支出で20万円を追
加

◆主な補正内容

・人事院勧告に伴う人件費の整
理によるもの。

条 例 案

□余市町温水プール条例を廃止
する条例案

施設内部の老朽化により安全
性が確保できないことから施設
廃止に向けた条例の廃止を行
いました。

□余市町水産加工研修センター
設置条例を廃止する条例案

□余市町勤労青少年ホーム条例
を廃止する条例案

施設の老朽化により安全性が
確保できないことや施設を設置
した目的が一定程度達成された
ことから施設廃止に向けた条例
の廃止を行いました。

□余市町職員給与条例及び余市
町会計年度任用職員給与及
び費用弁償に関する条例の一
部を改正する条例案

□余市町議会議員の議員報酬及
び費用弁償等に関する条例の
一部を改正する条例案

□余市町特別職の職員の給与及
び旅費並びにその支給方法に
関する条例及び余市町教育長
の給与及び勤務時間等に関す
る条例の一部を改正する条例
案

人事院勧告に基づく関係法律
の改正により、それぞれ所要の
改正を行いました。

そ の 他 の 案 件

□指定管理者の指定について

黒川町営駐車場及び黒川第2
町営駐車場に(株)古垣建設を、
余市あゆめ公園(パークゴルフ
場等)及び余市町総合体育館及
び余市運動公園有料公園施設に
(株)東洋実業を指定管理者とし

審 議 内 容

議会のホームページはこちら

<https://www.town.yoichi.hokkaido.jp/gikai/index.html>

議会のホームページを随時更新し、情報発信に努めています。

余市町議会

損害賠償請求事件の判決に対する控訴について提案され、可決しました。

□ 控訴の提起について

令和4年11月2日に札幌簡易裁判所に調停手続きをしていた余市町宮齋場建替事業建設工事の解決案が示され調停に係る合意が調ったことから調停の成立について提案され、可決しました。(行政報告参照)

□ 調停の成立について

指定しました。なお、指定期間は令和7年4月1日から3年間となります。

行政報告

□ 調停の成立について

〔令和6年12月12日開催第4回定例会〕

余市町宮齋場建替事業建設工事により令和元年5月20日梅川霊園において地すべりが発生したため工事が中止となりました。地すべりの発生原因について設計会社と協議してきましたが、双方の見解に相違があったことから、協議の場を司法機関に委ねることとし、令和4年11月2日に札幌簡易裁判所に調停申立ての手続きをしました。

令和4年12月6日に第1回の調停が開催され、その後双方による証拠書類の提出や主張の確認など計13回にわたる調停を経て、札幌簡易裁判所調停委員会より設計会社及び町に対して解決案が提示されました。

提示を受け、代理人弁護士とも協議をしたところ、妥当性が認められると判断し、令和6年11月26日開催の調停において相手方設計会社についても解決案を受諾する意向が示され、調停に係る合意が調いましたので、今期定例会に所要の議案を提出させていただきたく、議員各位の理解を賜りますようお願いを申し上げます。

議案に対する各議員の賛否一覽

各議員の賛否結果が分かれた案件(欠席・退席含む)を掲載しています。

令和6年第4回定例会 議案に対する各議員の賛否一覽表

賛成：○ 反対：× 欠席：欠 退席：退

件名	審議結果	明 政 会			よいち未来				公明党		会派に属さない議員					
		佐藤剛司	内海富美子	庄巖龍	中井寿夫	伊藤正明	茅根英昭	山本正行	尾森加奈恵	岸本好且	川内谷幸恵	土屋美奈子	白川栄美子	寺田進	あきたる	大物翔
令和5年度余市町水道事業会計決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
令和5年度余市町一般会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
令和5年度余市町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
令和5年度余市町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
令和5年度余市町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
令和5年度余市町公共下水道特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
令和6年度余市町一般会計補正予算(第7号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
余市町勤労青少年ホーム条例を廃止する条例案	原案可決	○	○	○	○	○	○	退	×	退	×	×	○	○	×	○
調停の成立について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○

令和7年第2回臨時会 議案に対する各議員の賛否一覽表

控訴の提起について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
-----------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

※藤野博三議長は採決には加わりません。

常任委員会の動き

【総務産建常任委員会】

閉会中における各常任委員会の活動状況について、主要な調査事項などをお知らせします。各常任委員会の記録は、町立図書館に配置しておりますので、ご利用ください。

道の駅の再編整備について調査しました。

【第15回】

(令和6年10月16日開催)

○余市町除雪計画について
(所管事務)

令和6年度除雪計画について除排雪やパトロールの体制、雪捨場の指定等について説明を受け、審議しました。

○果樹における病害の発生状況について(報告案件)

生食用ブドウ品種のキャンベル・アーリーに晩腐病による被害が発生しており、本年度においてはナイアガラの一部にも病害の発生が見られ、その多くは黒川地区の平場のブドウ棚であり、傾斜のある畑では発生が少ない傾向にあるが、被害の拡大を抑えるために余市町ブドウ生産出荷組合の会長及び役員、後志農業改良普及センター北後志支所、余市町農業協同組合、農林水産課による関係機関協議の場を設け、晩腐病の現状と情報共有を図り、防除暦における晩腐病への薬剤散布のタイミングと回数をより具体的に表記する対応を図り、農家へ周知と認識をさせるとともに、今後も関係機関による情報共有をしながら効果的な対策を検討していく旨の報告を受けました。

○令和5年度漁業生産高について(報告案件)

令和5年度の魚種ごとの水揚げ量と水揚げ額について報告を受けました。

○第40回味覚の祭典実施結果について(報告案件)

入り込み数は7400人と推計しており、特産品の販売・体験コーナーやステージ上でのアトラクション、子どもに楽しんでもらうことを目的としたイベントコーナー等の開催内容も好評であった旨の報告を受けました。

【第16回】

(令和6年11月19日開催)

○町税の納付方法別収納状況について(所管事務)

金融機関等や口座振替による納付のほか、納税環境を図るために行っているクレジット納付やコンビニ納付の方法別収納状況について、各税目の件数、利用率、納付額、令和5年と前年度比較の説明を受け、審議しました。

○令和6年度人事院勧告について(報告案件)

人事院勧告に基づき、職員の給与改定の要旨について報告を受けました。

○余市町水産加工研修センターの在り方について(所管事務)

雨漏り等により天井部材落下の危険があり安全性が確保できない状況で施設の利用実績が少ない中、多額の修繕費用を捻出することが困難であることから施設を廃止する方向で進めたい旨の説明を受け、審議しました。

○余市町勤労青少年ホームの在り方について(所管事務)

一定数の利用はあるものの建物全体が老朽化により著しく損耗しており、各所における雨漏りや内壁の亀裂、外壁の一部が剥落していることから、安全性の確保が困難であることや国においても勤労青少年福祉法が改定され、勤労青少年ホームの設置に関する規定が廃止されていること、また、本来目的の利用者がいない中、多額の修繕費用を捻出することが困難であることから施設を廃止する方向で進める旨の説明を受け、審議しました。

○親善都市協定の締結について(報告案件)

ワインの銘醸地であるフランスのジュヴレ・シャンペルトン村と栽培や醸造技術の向上、国内外に向けたマーケティングの

推進などを図ることを目的とした親善都市協定を締結するために協議を進めている旨の報告を受けました。

【第17回】

(令和6年12月18日開催)

○道の駅再編整備について(所管事務)

令和5年度から19回にわたり施設の配置案や道の駅施設内に整備すべき機能などを中心に詳細協議を進めてきたが、これまでの詳細協議を経て、基本設計業務の成果を踏まえた事業エリア全体における施設の配置案、道の駅施設内に整備する機能、整備費用、ランニングコスト等、新たな道の駅の魅力を明確にした最終提案を12月20日に受け、事業実施の可否は町長が判断する旨の説明を受け、審議しました。

(他の審議案件)

(所管事務)

○余市町住生活基本計画の策定について

○余市町公営住宅等長寿命化計画の策定について

常任委員会の動き

【民生教育常任委員会】

閉会中における各常任委員会の活動状況について、主要な調査事項などをお知らせします。
各常任委員会の記録は、町立図書館に配置しておりますので、ご利用ください。

新型コロナウイルス感染症対策について調査を行いました。

【第16回】

(令和6年10月9日開催)

○新型コロナウイルス感染症対策について(所管事務)

昨年度まで臨時接種だった新型コロナウイルスワクチンの予防接種が、今年度からインフルエンザと同様にB類疾病に定められ、定期予防接種として10月7日から、65歳以上の方や60歳から64歳で心臓、腎臓、呼吸器、免疫の各機能に障害を有し身体障害者手帳1級を持つている方々を対象に実施するとの説明を受け、審議しました。

○令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について(所管事務)

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることや学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等を目的に行われた調査結果について、小学校第6学年3校、中学校第3学年3校、合わせて200人を対象に調査を行った結果、教科全体では小学校は国語、算数が全国・全道を下回り、中学校も国語、数学が全国・全道を下回っており、教科の領域別

に全国の結果を100とした場合の全国・全道と本町の状況をリーダーチャートで示したものは小学校は国語の話すこと・聞くこと・書くことの領域では全国・全道を下回ったものの、その他の領域ではほぼ全国・全道を上回る結果であり、中学校についてはデータの活用領域で全道を上回る結果となったが、本調査で測定できるのは子どもの学力の一部であり、今後も学力の基礎力の向上に努めていく旨の説明を受け、審議しました。

○余市町総合体育館及び余市運動公園有料公園施設指定管理者募集要項について(所管事務)

令和7年度以降の指定管理者募集に関わる要項について説明を受け、審議しました。

【第17回】

(令和6年11月21日開催)

○特定健診の実施状況について(所管事務)

令和4年度の受診率は北海道全体で29.7%、後志全体で32%、余市町は30.5%であり、余市町では過去最高の受診率となっているが、未受診者については引き続きそれぞれの特徴に合わせた効果的な受診勧奨を行

うとともに、かかりつけ医療機関との情報共有、保健師等の訪問等を行い、受診率向上に努めていく旨の説明を受け、審議しました。

○余市町温水プールの廃止について(報告案件)

令和3年4月から休止している温水プールについて施設内部における劣化進行、鉄骨材の腐食が著しい状態であり、安全上の理由から施設解体に向けて令和6年4月に行ったアスベスト含有調査結果の報告を受け、9月に開催された余市町教育委員会第9回定例会において教育財産の用途廃止を行ったことから、今後施設の廃止に向けた条例を提案する旨の報告を受けました。

○余市協会病院の救急医療体制について(報告案件)

協会病院の緊急医療体制は応援医師で整えており、その報酬と当直看護師の人員費など医療体制の維持には多額の経費が必要なことから、本年度も協会病院から北後志5か町村に要請があり、財政支援について合意がなされたことや、令和5年度の協会病院救急患者数や救急医療体制維持に係る補助金の支出状況について報告を受けました。

○北後志衛生施設組合規約の変更について(報告案件)

北後志衛生施設組合が運営、管理しているし尿処理施設の老朽化に伴い、新たな施設を令和7年度の供用開始に向けて建設中であり、今後既存施設の解体及び解体による組合事務所の移転、解体費用に係る関係町村の負担割合を規定するため、北後志衛生施設組合規約の一部を変更する旨の報告を受けました。

【第18回】

(令和6年11月27日開催)

○調停の成立について(報告案件)

町営斎場立替事業建設工事に関わり、梅川霊園において切土工により地滑りが発生し工事が中断となり、施工業者との契約が解除となったことから、発生原因について検証し、顧問弁護士に相談したところ基本設計、実施設計業務に瑕疵があるとの見解から、受託会社と話し合いをしてきた結果、双方の見解に相違があったことにより、司法機関において話し合いを行うため調停申立ての手続きをし、提示された解決案で双方が合意し調停に係る協議が調った旨の報告を受けました。

一 般 質 問

第4回定例会での一般質問は、10人の議員から18件の町政全般に対する質問がありました。
一般質問は、一問一答方式により、質問、答弁を合わせ制限時間45分の範囲内で行い、議会だよりに掲載している内容の要約は質問した議員みずからが要約し、その原文を掲載しています。

尾森加奈恵 議員

(よいち未来)

防災への取り組みについて

質問 尾森議員 防災への取組について、次の事項を伺いたい。

- ① スマートフォンを持たない人や聴覚障がいなどを持つ人への情報伝達方法と確実な情報伝達の実証実験は実施しているのか。
- ② 避難行動要支援者の人数と作成している個別計画の件数について。
- ③ 1名の民生委員に共有している避難行動要支援者情報の件数と活用方法の指示について。
- ④ 避難所のバリアフリー化について。
- ⑤ 地域の防災力強化に欠かせない区会等への支援について。

答弁 齊藤町長 ①広報車の巡回やテレビ、ラジオなどを通じた情報伝達を考慮しており、実証実験は行っていない。

②令和6年1月1日現在で避難行動要支援者名簿に登録された避難行動要支援者は2919人、個別計画は1860人分作成しており、今後は関係機関と連携を密に実効性のある個別避難計画の作成に取り組んでいきます。

③最小で7名、最大で94名で、ふだんから見守りや声がけなどを行ってもらうことで、個別避難計画作成に向けた地域連携の強化を図ることが目的です。

④福祉避難所として6施設を指定しており、避難所のトイレは車椅子でも使用できる災害用マルチ対応型のトイレの配備を進めています。

⑤区会防災活動助成金事業を継続し、区会の防災訓練や防災活動に必要な資材整備にかかる経費を助成しています。

質問 尾森議員 産後ケア事業について、次の事項を伺いたい。

- ① 令和6年度の産後ケア対象者数と利用者数について。
- ② 家事支援、配食サービス等、利用者のニーズに合わせたメニューを充実させる必要があると考えるが、見解について。
- ③ 産後ケアのオンライン予約やオンライン相談ができる子育て支援アプリの活用について。

産後ケア事業について

質問 尾森議員 産後ケア事業について、次の事項を伺いたい。

- ① 令和6年度の産後ケア対象者数と利用者数について。
- ② 家事支援、配食サービス等、利用者のニーズに合わせたメニューを充実させる必要があると考えるが、見解について。
- ③ 産後ケアのオンライン予約やオンライン相談ができる子育て支援アプリの活用について。

答弁 齊藤町長 ①対象者は96人、利用者数は延べ5人です。

②子育て支援に必要な事業があれば導入するように調査しています。

土屋美奈子 議員

(よいち未来)

自治体DXにおける生成AI活用の可能性について

質問 土屋議員 自治体DX推進で注目される生成AIは、業務効率化や住民サービス向上が期待されるが、本町では導入実績がなく、検討が必要であるため、活用に対する見解や職員のスキル向上の方針について、次の事項を伺いたい。

- ① 生成AIは自治体業務の効率化や住民サービス向上に可能性があるとされるが、本町の活用に対する見解について。
- ② 生成AI活用には職員のデジタルリテラシー向上が不可欠であり、生成AIの利用スキルや情報の正確性を判断する能力を習得するための研修や支援策、

さらに職員のモチベーション向上に対する施策についての見解について。

答弁 齊藤町長 ①生成AIは自治体業務効率化や住民サービス向上に有望ですが、業務システムとインターネット環境の分離により導入が進まず活用が限定的となっているため、今後、先進事例を参考に導入の可能性について情報収集を進めます。

②生成AIの効率的な活用には、職員のデジタルリテラシー向上が重要であり、研修や支援策が必要とされ、さらに、成功事例の共有やフィードバックを基にした施策改善を通じて職員のモチベーション向上を図り、スキルアップと意識改革を推進することが重要だと考えます。

質問 土屋議員 文章作成や難解な内容の要約などに生成AIを活用することで、業務時間の大幅な削減が期待されるため、導入に向けた道筋を早急に検討すべきと考えており、具体的な計画の策定を進め、今すぐにも取組を開始する必要があると考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 生成AIは業務効率化や予算削減に有効で、文字起こしや要約が容易になり、外部委託の経費削減が期待でき、個々の職員レベルでは利用が進

一 般 質 問

んでいる可能性もありますが、有意義なツールですので早急な導入を検討すべきと考えます。

質問 土屋議員 まず必要なのは町長の号令であり、計り知れないメリットがあることからスピード感を持って取り組むべきだと考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 生成AIの有効性は認識しており、導入に当たってはネットワーク分離などの技術的な問題を含め、検討を進めたいと考えます。

伊藤 正明 議員 (明政会)

廃棄物処理業者に対する対応について

質問 伊藤議員 小樽市の産業廃棄物処理業者が法令違反の疑いで逮捕され、小樽市内では混乱が生じているが、余市町内では家庭ごみの収集は第一清掃公社が、資源ごみはリサイクル協同組合が受託しているが、小樽市の事業を受け対応策を検討しているのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 一般ごみ及び資源物の収集業務については毎月の業務報告や定期的に現場を

確認しており、業務を適正に執行していること認識しています。

質問 伊藤議員 ごみ処理は、町民の生活に密接に関わっており、安定した住民サービスを提供していくためには、リスクの極小化を図ることが求められており、町長は令和6年6月の定例会において、次の予算策定までに解決策を見出していきたいと

答弁 齊藤町長 収集業者が協力することで、よりよい収集体制の構築を図ることを目指してまいります。今は時代の変化と法令が合っていないので、リサイクル協同組合には許可業者を全部入れて安定的な運用体制にするのが合理的であるとの方針・方向性を示すことが重要ではないかと考えています。

水道事業経営の将来展望について

質問 伊藤議員 国が全国の水道の調査結果を公表し、発がん性が懸念される有機フッ素化合物PFASが余市町でも検出されたとの報道があったが、実情について見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 令和2年度か

ら年1回検査を実施しており、国が定める目標値を下回っていることから、町民の皆さんに安心して利用いただける水道水であることを確認しています。

質問 伊藤議員 水道事業は令和9年以降に厳しい経営状況に陥ると予想されるが、余市町新水道ビジョンにある水道施設の再構築を実施してダウンサイジングを前倒して図ることを実行する考えや水道事業の広域連携について見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 令和13年度に向け他の更新事業もあり、水道施設の再構築の前倒しの実施は難しいと考えており、広域連携は北海道広域連携推進プランは策定はされているが具体的なアクションや協議は受けておらず、現時点で広域化の検討は行っておりませんが、事業経営健全化に資するものか研究してまいります。

大物 翔 議員 (無会派)

不必要となった学用品の利活用に向けた仕組みづくりについて

質問 大物議員 過去に質問した学生服やスキー用品など学用

品購入の保護者負担軽減策について、町は多額の予算が必要で実現は難しいとの答弁があったため、方向性を変えてお下がり

の利活用という視点から見た場合、学校卒業時、多くの学用品は不必要となる一方、児童生徒の成長過程で学用品の買換えを余儀なくされることがあり、保護者にとっては大きな負担となっており、昨今の物価高で就学援助世帯以外にも苦しんでいることから、もってけ市のように

不必要な学用品の利活用を促す取組を実施することや、現在の就学援助制度だけではなく、物価高に苦しむ全ての家庭が利用できる仕組みを構築することが必要であると考え、見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 以前はPTA活動としてスキー用品の譲渡会を実施していましたが、現在はコロナ禍における感染症対策や引取り手のなかった用品の処分等の問題から実施しておらず、制服については民間団体において制服の譲渡を目的とした取組が実施されており、物価高対策については、国でも様々な施策を展開しており、町でも給食費や保育料の無償化などの支援策に取り組んでいます。

質問 大物議員 引取り手のな

い学用品の後始末を解決することで構築が見えてくると考えており、今は様々な事情から民間の組織では活動が難しく、お金をかけなくても解決できる道筋を立てていくためには仕組みをつくって周りを巻き込んでいくことが大切だと考えるが、見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 行政と民間で役割分担をして取り組むことが大事だと考えており、行政が主体的に取り組むのではなく民間が主導的

に活動の輪が広がって実効性が伴うと考えます。
質問 大物議員 民間で活動している事業者や団体などが実施している情報を行政が保護者に伝える取組も大事だと考えるが、見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 行政が何から何までやるのではなく、行政と民間の役割分担が大事だと考えていますが、ご指摘については研究したいと考えます。

図書館で会議録や委員会記録が閲覧できます

議会だよりは内容を要約して掲載しています。より詳しい内容をお知りになりたい方は、図書館に備え付けの会議録をご利用ください。

一 般 質 問

山本 正行 議員

(よいち未来)

余市町の有害鳥獣

(ヒグマ)対策について

質問 山本議員 北海道による

と、道内における令和5年度のヒグマによる人身被害は9名、捕殺統計値は1804頭と記録が残っている1962年以降では最多となっており、本町において人身被害はないものの、果樹木等への被害が増加傾向にあると考えるが、次の事項を伺いたい。

①令和5年度の本町のヒグマによる被害、出沒、捕殺状況について。

②ヒグマの出沒情報があった際の猟友会余市支部との調整と対応について。

③ヒグマの出沒捕殺件数が増加している中で、ハンターの安定確保に向けた取組の実施状況について。

答弁 齊藤町長 ①被害についてはサクランボ、ブルーベリー、梨、リンゴの被害と枝折れなど果樹が多く見られ、デントコーンの被害も発生しており、豊丘町、梅川町、山田町、美園町、登町、

栄町の町内各所に出沒し、28回の出沒情報のうち登が8回、豊丘が7回であり、6頭の捕殺となっております。

②寄せられた情報から出沒地域、地区の猟友会余市支部のハンターであるヒグマ防除隊員に連絡を取り、町職員、防除隊員のほか、出沒地点によっては警察も同行し、現地確認を行うなど対応に当たっています。

③余市町有害鳥獣駆除対策協議会により狩猟免許及びライフル銃の取得、新規猟銃の購入に要した経費に対して助成金を交付しており、ヒグマ駆除に関しては、これまで以上に猟友会余市支部と信頼関係の構築に向け、町、猟友会及び警察の3者による連携強化に努めます。

質問 山本議員 ③令和5年度

はパトロールも含めて84件の出動があり、報償金の年間予算が40万円なので1回当たり約4500円となるが、命がけのヒグマの駆除に対する報酬が不十分だということは全道でも問題になっていて、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 ③ハンターの

皆さんは命の危険と向き合いながら対応していただいていると認識していますが、余市町は日当ではなく総額を渡す形式を取っており、金額にこだわるこ

となく必要な額があれば話し合いで調整していきたいと考えます。

寺田 進 議員

(公明党)

町道の安全対策に

ついて

質問 寺田議員 歩行者の安全

を確保するために自動車の最高速度に関する法律が改正され、令和8年9月から施行されるが、次の事項を伺いたい。

①対象となる町道の対応方法と、公安委員会との協議について。

②道幅が狭くカーブが多いにもかかわらず道道よりも速度が制限されていない町道があるが、

規制標識設置の検討について。

③通学路である大川町南2線は現在の40キロ規制が継続される

とのことだが、ゾーン30プラスなど通学路の安全確保について。

答弁 齊藤町長 ①②規制標識の設置は公安委員会が主導であり、必要に応じて協力しながら

対応します。

答弁 前坂教育長 ③通学路の安全確保は、余市町通学路安全推進会議で協議しており、ゾ

ン30プラスは通学路の安全確保

の観点から効果的な対策だと認識しています。

質問 寺田議員 ②警戒標識で

対応していく場合になることも含めて、早めに公安委員会等と

打合せをしてはどうか。

答弁 齊藤町長 ②公安委員会

で今後決まっていますので、その推移を見守りつつ協力して

いきます。

質問 寺田議員 ②規制標識が

ある道道に交差する町道に多くの警戒標識があるが不備があり、

設置数も多いが規制標識が導入されない理由について。

答弁 齊藤町長 ②警戒標識の不備はパトロールで確認し、規

制標識は必要に応じて公安委員会が対応すると考えます。

質問 寺田議員 ②美園線と山

田線の変則な交差点は車両が多く通るが規制がされていないた

め、公安委員会と積極的に打合せを行うべきではないか。

答弁 齊藤町長 ②指摘された箇所については認識しました。

質問 寺田議員 ③令和8年に

生活道路への30キロ制限の導入が予定されていることから整備の推進を図るチャンスであり、

南2線については積極的に取り組んでいただきたいが、見解を

2線については危険箇所として認識しており、余市町通学路安全推進会議で警察署、道路管理者と検討、研究をしていきたいと考えます。

ジャストミートあたる議員

(無党派)

余市大好きフェスティバルの運営について

質問 ジャストミートあたる議員

よいち大好きフェスティバルの運営について次の事項を伺いたい。

①喫煙所が入り口付近に設置されていたが、最も人通りが多い上、子どもも参加するイベントにおいて選択は適切だったか。

②席に座れない来客を何人も見かけたが、席数が足りなかったのではないか。

③会場入り口の渋滞の緩和策等、反省点、改善点について。

答弁 齊藤町長 ①設置場所の見直しを検討します。

②新たな取組としてレジャーシートやワンタッチテントの持ち込みを推奨しましたが同様の

意見があり、検討を進めます。

③警備員を増員して対応しまし

一 般 質 問

たが、来年の開催に向け、実行委員会で開催機関と協議を進めています。

余市町役場、庁舎内の喫煙について

質問 ジャストミートあたる議員 先日、農業委員会の室内で喫煙を見かけ、庁舎内は電子タバコも禁止と入り口に表記してあるが、農業委員会室は例外か。
答弁 齊藤町長 庁舎内は当然禁煙で、確認したところ、喫煙の事実はありませんでした。

本町のペロプスカイト太陽発電へのこれからの取り組みについて

質問 ジャストミートあたる議員 本町のペロプスカイト太陽発電へのこれからの取組について、見解を伺いたい。
答弁 齊藤町長 次世代太陽電池としてペロプスカイト太陽電池は軽量で柔軟性があることから、様々な用途での活用が期待されていますが、耐久性や環境面での課題もあることから、社会実装に向けて国の動向を注視していきます。

円山公園サテライトオフィスのこれからのについて

質問 ジャストミートあたる議員 円山公園サテライトオフィスのこれからのについて、次の事項を伺いたい。
①5000万円の税金をかけてまでサテライトオフィス事業を始めようと考えた理由について。
②実際に利用したが手続きが面倒で、公園内の事務所直接申請できるようにならないか。

答弁 齊藤町長 ①都市公園としての特性を生かして地域住民や経済への還元を目指すことを目的としており、コロナ禍を契機に政府のデジタル田園都市国家構想交付金の趣旨に合致すると判断し、交付金を活用して整備しました。
②使い勝手がいいにこしたことはないので、改善していきたいと考えます。



円山公園サテライトオフィス

白川栄美子 議員 (公明党)

5歳児健診の導入について

質問 白川議員 こども家庭庁

では5歳児健診を実施する自治体への補助金を手厚くする方針を打ち出し、さらに5歳児健診ポータルサイトを開設し、自治体や医療関係者、保護者向けの情報発信を開始したが、サイトを活用した5歳児健診の導入について見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 ポータルサイトは5歳児健診を考える上で有用と考えており、モデル事業の取組を注視しながら導入に向けて調査研究していきます。

質問 白川議員 5歳児健診は体の発育だけでなく感情や行動の傾向を見ることで発達障がいや早期発見しやすく、子どもの特性に配慮した教育のサポートができると言われていたが、教育長の見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 乳幼児健診は、入学時や入学後においても保護者や児童への必要な支援を提供するための重要な機会になると考えています。

質問 白川議員 親がポータルサイトを活用することで、自分の子の発達障がいへの気づきにもつながることから、サイトを活用した方策を考えるべきだと考えるが見解を伺いたい。
答弁 齊藤町長 補助金など財源の確保を考えながらどういうことが可能か検討します。

墓地行政と合葬墓設置の考え方について

質問 白川議員 墓地行政と合葬墓設置について、次の事項を伺いたい。

①墓地、霊園の敷とお墓の継承の割合について。
②身寄りのない方、引取り手のないお骨の弔い方について。
③合葬墓設置の要望があり、墓地を管理する上で設置すべきだと考えるが見解について。

答弁 齊藤町長 ①墓地が6か所、霊園が1か所、継承手続きの割合は令和5年度で49.3%です。
②町内の寺院などで引き取っていただいています。

③合葬墓への関心の高まりは認識していますが、宗教界ではそれぞれ納骨堂や合葬墓を設置しており、町が設置する必要性は

5歳児健診をすべてのこどもに。



健診の流れやケーススタディが見える、分かる、ポータルサイト

5歳児健診ポータルサイト (こども家庭庁)

引き続き調査研究します。

質問 白川議員 お寺さんを持たない人もおり町民の声を個別に受けて止めていただきたいと考えが見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 新しい斎場に併設するなど、検討の余地があるので関係者と意見交換しながら方向性を示していきます。

一 般 質 問

内海富美子 議員

(明政会)

時代の変化に伴う教育環境の整備について

質問 内海議員 時代の変化に伴う教育環境の整備について、次の事項を伺いたい。

- ①物価上昇で学校給食は摂取カロリリー、栄養バランスのよい献立に対応できているのか。
- ②パソコンやタブレット授業での視力低下や眼病について検査指導を行っているのか。
- ③校舎の盗撮への対策について。

答弁 前坂教育長 ①栄養教諭が栄養バランスの取れた献立作成や衛生管理を行い、安全で健康的な給食の提供のための管理業務を担っており、近年の物価高で給食も大きな影響を受けていますが、栄養バランスや量を保った給食提供を目的に国の交付金を活用した助成事業を実施しているほか、今年度は給食費無償化に際し物価上昇を見込んだ予算を計上しており、不足はありません。

②小学1年生と4年生、中学1年生を対象に、年に1度、眼科検診を実施しており、使用時間

の制限や正しい姿勢で操作するよう指導しています。

③各小中学校では不審者の侵入を防ぐため、登下校時を除く時間帯は玄関を施錠し、開放の際は職員が立ち会う等の対策や、SNSを介したトラブル等、危険の回避を念頭においた教育活動や講師による携帯機器の適切な使用の授業を行っています。

質問 内海議員 ②タブレット授業によって理解力は向上しているのか。

答弁 前坂教育長 ②授業力の向上につながることは間違いな

高齢者に対する施策について

質問 内海議員 高齢者の生活状況の把握方法を伺いたい。

答弁 齊藤町長 役場の窓口での相談受付や関係機関等を通じて状況把握に努めており、支援が必要な場合には関係機関等と連携し、共有を図りながら適切に行えるように努めています。

質問 内海議員 生活保護世帯や非課税世帯への支援に該当しないはざまの世帯への支援につ

いて。

答弁 齊藤町長 国では物価高対策の予算がついており、生活保護や非課税世帯にはその予算で対応する施策が示されていますが、はざまの世帯に対しては地方への物価高対策交付金の活用方法を検討し、支援ができるよう対応策を練りたいと考えています。

川内谷幸恵 議員

(よいち未来)

带状疱疹ワクチンについて

質問 川内谷議員 带状疱疹ワクチン接種の補助を出す考えについて伺いたい。

答弁 齊藤町長 予防にはワクチン接種が有効と認識していますが、現在国では厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会において定期接種化に向けてワクチンの有効性、安全性等について審議しており、国の動きを注視していきます。

質問 川内谷議員 北海道内では67市町村が助成を導入しており、全額補助の泊村では想定

1.5倍となる150人が助成

制度に申請された事例もあり、生活に困窮している高齢者が多い中、医療費にお金を割けない状態であると思うが、補助に対する見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 泊村と余市町では人口の規模が全く違うため、財源の確保の問題も踏まえて定期接種化の議論の動向を見極めつつ検討します。

町立保育所の待機児童と人材確保について

質問 川内谷議員 待機児童の解消について、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 共働き世帯が増加したことにより保育所のニーズが高まっており、待機児童の解消は重要な課題と認識しています。

質問 川内谷議員 余市町では待機児童が発生しないよう利用希望の状況を把握し、幼稚園や認定こども園への移行、町外の保育施設との連携など適切なサービスの充実に取り組んでいるとのことだが、待機児童が出るということとは、これがまだ実現されていないと考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 保育士の人材

確保の観点から待機児童が出てしまう場合もありますが、クラス分けを工夫するなど様々な努力をしており、保育士を確保しつつ待機児童の解消をするべく引き続き取り組んでいきます。

質問 川内谷議員 保育士の仕事に意欲のある方へ修学、就職を幅広く支援するような制度を導入することで定住施策にもなると考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 若年層に対する定着支援として、奨学金を受けていて、本町に住んで働く方に奨学金を町が肩代わりする制度を実施しており、民間の保育士はその対象になることから、いかに多くの保育士を確保することができののかを考えながら施策を行います。



大川保育所



中央保育所

議会を傍聴してみませんか

《次の定例会は3月上旬に開催の予定です》

- ◆本会議は、役場3階の議会事務局で、傍聴人受付簿に住所・氏名を記入するだけで傍聴できます。傍聴定員は38人となっており、会議当日の先着順となっています。
- ◆常任委員会や特別委員会は、委員長の許可を得なければ傍聴できないことになっていますが、プライバシーに関わる審議など特別の事情がない限り傍聴を認めています。



※詳しい日程などは、議会ホームページをご覧ください。議会事務局(TEL21-2132)へお問い合わせください。

議会日誌

11月

- 21日 民生教育常任委員会
- 25~27日 各会計決算特別委員会
- 27日 民生教育常任委員会

12月

- 9日 議会運営委員会
- 10~12日 第4回定例会
- 11日 議会運営委員会
- 18日 総務産建常任委員会
- 23日 北後志消防・衛生施設組合議会

1月

- 16日 総務産建常任委員会
- 17日 議会運営委員会
- 20日 第1回臨時会
- 24日 民生教育常任委員会
- 28日 議会運営委員会

2月

- 4日 議会運営委員会
- 5日 第2回臨時会
- 10日 北しりべし廃棄物処理広域連合議会
- 12日 後志町村議会議長会定期総会
- 17日 総務産建常任委員会

編集後記

言葉を文字に変換し、目に見える形で人々にお伝えするのが、議会だよりの役割の一つですが、実際に手掛けると様々な課題に直面します。

昨年、北海道町村議会議長会が主催する議会広報研修会に、総務産建常任委員会の一人として参加しました。研修会は「読者に読まれる議会報の企画と編集」と題して行われ、議会の広報広聴活動や議会報の課題などに関する講演がなされた後、様々な町村の議会だよりを例に講師の手によって色使い、字の大きさ、構成、テーマなど複数の視点から考察が行われ、たくさんの方に読まれる議会報をつくるためには考慮しなければならぬ視点が数多くあり、飽くなき改善を重ねていかなければならないと再認識しました。

情報媒体の主体が紙からデジタルへ移り変わりつつある時代ですが、出来事を誰かに「伝える」という本質的な部分は変わりません。日進月歩で目まぐるしく進む世の中で、今以上にもっと読みたい、読みやすいと一人でも多くの方に思っていただけでも本町議会の議会だよりも検討を重ねていきたいと思えます。

総務産建常任委員会
委員 大物 翔